



新型コロナウイルスが感染症法上の5類に引き下げられてから8日で半年がたった。道内は5類移行後、夏場に感染拡大の「第9波」とみられる局面もあったが、昨年10～12月の「第8波」ほど感染は拡大しなかった。専門家は集団免疫を獲得した可能性があるとの見方を示す。ただ、札幌医大の独自推計では直近1週間の感染者が9千人を超えるなど増加傾向。特に冬場は感染が広がりやすく、インフルエンザとの同時流行に懸念もある。

国や都道府県がまとめる感染者数は5類移行後、毎日の「全数把握」から、指定医療機関の報告に基づく週1回の「定点把握」に簡略化された。札幌医大ゲノム医科学部門は5類移行を受けて5月から、過去のデータを基に定点把握の感染者1人が全数把握なら何人くらいに相当するか、独自の推計を始めた。

推計によると、5月8～14日の道内の感染者数は5類移行前の前週（5月1～7日）と比べて19%増の5593人だった。その後は8月14～20日に移行後初めて2万人を突破し「第9波」に入ったともみられたが、9月11～17日に2万人を切った。同部門の井戸川雅史准教授は感染防止策が定着したことやワクチンの接種の進展に加えて、罹患（りかん）歴のある人が増えたことで「国民にある程度、免疫ができたのではないかとみる。

5類移行に伴い、社会もコロナ前に戻りつつある。屋内外のイベントの多くは再開し、マスクも着用しない人の姿が見られるようになった。札幌市手稲区の西成病院健診センターの小林清一センター長（臨床免疫学）は「全体的に感染者数が大きく増える兆候はなく、このままの状態が続く可能性がある」と話す。

道は国の方針に沿って5類後の医療体制を示す「移行計画」を5月に策定し、最大確保病床数を2006床とした。半年が経過したことを踏まえ、国は来年3月末までに段階的に削減するように求めており、病床数を減らした新たな移行計画を近く公表する方向だ。

ただ8月下旬から続いていた減少傾向はわずかに増加に転じ、直近10月23～29日は前週比4・2%増の計9072人と推計される。またインフルエンザは全道で指定医療機関1カ所あたりの感染者数が10人を超え、過去10年で最も早く注意報レベルに達す

るなど急拡大している。同時流行やそれに伴う医療提供体制の逼迫（ひっばく）を懸念する見方もある。

井戸川准教授は「インフルエンザが例年ピークに入る年末年始ごろは注意が必要」と指摘。高齢者施設や病院内での感染拡大への警戒を呼びかけている。（久保耕平）